

農林水産省北陸農政局

令和7年10月10日統計部公表

作物統計調査

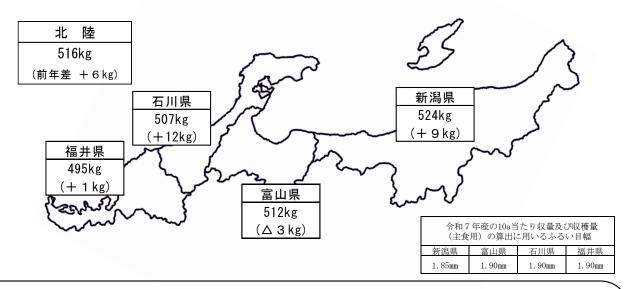
令和7年産水稲の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量(北陸)

令和7年産主食用米収穫量(生産者ふるい上米)は 96万8,900tで前年産に比べ7万2,900t増加の見込み

【調査結果の概要】

- 1 令和7年産水稲の<u>作付面積(青刈り面積を含む。)は20万5,900ha</u>(前年産に比べ600ha増加)と見込まれる。このうち<u>主食用作付面積は18万7,700ha(</u>前年産に比べ1万1,900ha増加)と見込まれる。
- 2 9月25日現在における北陸の<u>10 a 当たり予想収量(生産者が使用しているふるい</u> 目幅ベース)は516kg(前年産に比べ 6 kg増加)と見込まれる。
- 3 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)を乗じた<u>予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は96万8,900 t</u>(前年産に 比べ7万2,900 t 増加)と見込まれる。
- 4 なお、予想収穫量(主食用(生産者<u>ふるい下米含む</u>))は101万3,000 t (前年産 に比べ7万4,200 t 増加)と見込まれる。

図1 生産者が使用しているふるい目幅ベースの県別 10 a 当たり予想収量



- 作付面積(青刈り面積を含む。)とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積である。 主食用作付面積とは、作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除い た面積である。(8ページの【参考1のⅠ】参照)
- 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量であり、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
- 10 a 当たり予想収量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

累年データ

水稲の年次別推移(北陸)

			生	産者が使用し	ている	\$	るい目幅	
				ふるい目幅で	:選別	1.70	作況単収	
年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)	主食用	10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用 (生産者 ふるい上米))	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (主食用 (生産者 ふるい下米含む))	指数 (生産者ふ るい目幅)
	ha	ha	kg	%	t	kg	t	
平成27年産	214, 100	184, 100	513	nc	945,000	531	977, 800	
28	213, 400	182, 100	553	108	1,005,000	567	1,031,000	
29	212, 500	180, 100	509	92	916, 400	529	952, 100	
30	212, 700	184, 800	508	100	938,000	533	985, 300	
令和元	212, 800	186, 400	526	104	980,000	540	1,007,000	
2	212, 300	185, 900	531	101	984, 600	550	1,021,000	103
3	211, 500	177, 900	505	95	899, 100	531	944, 600	97
4	209, 900	173, 500	518	103	898, 700	541	938, 800	101
5	208, 300	174, 000	501	97	872, 200	513	894, 000	97
6	205, 300	175, 800	510	102	896, 000	535	938, 800	99
7 (概数値)	205, 900	187, 700	516	101	968, 900	540	1, 013, 000	101

資料:農林水産省統計部『作物統計』

- 注:1 作付面積(青刈り面積を含む。)とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積である。 2 主食用作付面積とは、作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面 積である。
 - 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量及び収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は、生産者 が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 - 4 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。
 - 平成27年産から令和元年産まで: 北陸地域で過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいもの から数えて9割を占めるまでの目幅である。

令和2年産以降

- 各県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い 使用割合の目幅である。
- 5 収穫量(主食用)として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量(主食用)は、令和7年産以降、収穫量(主食用(生 産者ふるい下米含む))と表記することとした。
- 6 作況単収指数は、当年産に生産者が使用しているふるい目幅を基準とし、各年における前年産までの5か年中3年平均 (最高、最低除く) に対する10a当たり収量の比率を算出。
- 「nc」は、計算不能であることを示している。
- 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

◎県別累年データ

水稲の年次別推移 (新潟県)

年産			産者が使用し ふるい目幅で		ふれ 1.70	作況単収		
	作付面積 (青刈り面積を含む。)	主食用	10 a 当たり 収 量	対前年比	収穫量 (主食用(生産者ふ るい上米))	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (主食用 (生産者ふる い下米含む))	指数 (生産者ふ るい目幅)
	ha	ha	kg	%	t	kg	t	
平成27年産	121, 300	102, 400	509	nc	521, 200	527	539, 600	
28	121, 300	101, 500	565	111	573, 500	581	589, 700	•••
29	120,900	100, 300	505	89	506, 500	526	527,600	•••
30	121,500	104, 700	500	99	523, 500	531	556,000	
令和元	121,900	106, 800	530	106	566,000	542	578, 900	
2	121,800	106, 700	542	102	578, 300	558	595, 400	105
3	121, 400	101,800	507	94	516, 100	529	538, 500	96
4	121, 100	99, 900	525	104	524, 500	544	543, 500	102
5	120, 400	100, 600	502	96	505,000	511	514, 100	96
6	119,800	101, 400	515	103	522, 200	536	543, 500	99
7 (概数値)	119, 700	108, 600	524	102	569, 100	541	587, 500	102

注: 生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産~令和7年産は1.85mm。

なお、各県の作況単収指数(生産者ふるい目幅)の算出に用いた過去の10a当たり収量及び5中3平均値は、【統計表】【参考】各県 の各年作況単収指数算出に必要な 10a 当たり収量データに記載している(以下同じ)。

◎県別累年データ (続き)

水稲の年次別推移(富山県)

年産				産者が使用し ふるい目幅で		ふ? 1.70	作況単収	
	作付面積 (青刈り面積を含む。)	工作田	10 a 当たり 収 量	対前年比	収穫量 (主食用(生産者ふ るい上米))	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (主食用 (生産者ふる い下米含む))	指数 (生産者ぶ るい目幅)
	ha	ha	kg	%	t	kg	t	
平成27年産	39, 500	34, 200	542	nc	185, 400	559	191, 200	
28	39, 300	33, 800	555	102	187, 600	566	191, 300	
29	39, 100	33, 300	528	95	175, 800	546	181,800	
30	38,900	33, 300	535	101	178, 200	552	183,800	
令和元	38,900	33, 300	540	101	179, 800	553	184, 100	
2	38,900	33, 200	535	99	177, 600	556	184,600	102
3	38, 700	32, 200	515	96	165, 800	551	177, 400	98
4	38, 100	31, 300	523	102	163, 700	556	174,000	101
5	37,800	31, 200	511	98	159, 400	528	164, 700	98
6	37, 400	31, 200	515	101	160, 700	540	168, 500	99
7 (概数値)	37, 600	33, 700	512	99	172, 500	547	184, 300	99

注: 生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産~令和元年産は1.85mm、令和2年産~7年産は1.90mm。

水稲の年次別推移 (石川県)

		*,	III -> 1 > C	777712	(A / 1 / 1 / 1 / 1			
					こている ご選別	ふ? 1.70	作況単収	
年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)	主食用	10 a 当たり 収 量	対前年比	収穫量 (主食用(生産者ふ るい上米))	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (主食用 (生産者ふる い下米含む))	指数 (生産者ぶ るい目幅)
	ha	ha	kg	%	t	kg	t	
平成27年産	26,700	23,600	509	nc	120, 100	522	123, 200	•••
28	26, 400	23, 200	525	103	121,800	534	123, 900	
29	26, 100	23, 200	504	96	116, 900	519	120, 400	
30	25,800	23, 200	507	101	117,600	519	120, 400	
令和元	25,600	22, 700	515	102	116, 900	532	120,800	
2	25, 400	22,600	515	100	116, 400	530	119,800	101
3	25, 200	21, 400	512	99	109,600	527	112,800	100
4	24,900	20,700	515	101	106,600	532	110, 100	101
5	24,600	20,800	508	99	105, 700	518	107, 700	99
6	22, 900	21, 200	495	97	104, 900	521	110, 500	99
7 (概数値)	23, 200	22, 100	507	102	112, 000	530	117, 100	101

注:生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産~令和5年産は1.85mm、令和6年産~7年産は1.90mm。

水稲の年次別推移 (福井県)

がいはの 十つのが1には (1曲)が、												
				産者が使用し ふるい目幅で		ふ? 1.70	作況単収					
年産		生 (青刈り面積を含む。) 100 当たり		対前年比	収穫量 (主食用(生産者ふ るい上米))	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (主食用 (生産者ふる い下米含む))	指数 (生産者ふ るい目幅)				
	ha	ha	kg	%	t	kg	t					
平成27年産	26, 400	23, 900	495	nc	118, 300	518	123,800					
28	26, 300	23,600	518	105	122, 200	535	126, 300	•••				
29	26, 300	23, 300	503	97	117, 200	525	122, 300					
30	26, 400	23,600	503	100	118, 700	530	125, 100	•••				
令和元	26, 400	23,600	497	99	117, 300	520	122,700					
2	26, 200	23, 300	482	97	112, 300	518	120, 700	99				
3	26, 100	22, 500	478	99	107, 600	515	115, 900	98				
4	25, 700	21,600	481	101	103, 900	515	111, 200	100				
5	25, 500	21,500	475	99	102, 100	500	107, 500	99				
6	25, 200	21, 900	494	104	108, 200	531	116, 300	103				
7 (概数值)	25, 400	23, 300	495	100	115, 300	532	124, 000	103				

注:生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産~令和元年産は1.85mm、令和2年産~7年産は1.90mm。

【調査結果】

1 令和7年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む。以下同じ。)は20万5,900ha(前年産に比べ600ha増加)と見込まれる。これは他作物からの転換により増加したためである。

また、主食用作付面積は18万7,700ha(同1万1,900ha増加)と見込まれる。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

- 2 北陸の10a当たり予想収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、516kg (前年産に比べ6kg増加)と見込まれる。
 - これを県別にみると、新潟県は524kg(前年産に比べ9kg増加)、富山県は512kg(同3kg減少)、石川県は507kg(同12kg増加)、福井県は495kg(同1kg増加)と見込まれる。
- 3 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)を乗じた予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は96万8,900 t (前年産に比べ7万2,900 t 増加)と見込まれる。なお、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は101万3,000 t (前年産に比べ7万4,200 t 増加)と見込まれる。
- 4 生産者が使用しているふるい目幅ベースの北陸の作況単収指数は101と見込まれる。これを県別にみると、新潟県は102、富山県は99、石川県は101、福井県は103と見込まれる。各県の作柄表示地帯別の作況単収指数は、統計表のとおりである。

表1 令和7年産水稲の作付面積及び9月 25 日現在の予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))

作付面積(青刈り面積を含む))	作付面	積(主食用)		生産者が使用しているふるい目幅で選別						
区 分			実数	前年産との比較		実 数	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量		予想収穫量 (主食用(生産者ふるい上米)))			
	,,		大 奴	ניה	十座(. 0716	中又	元 <u>数</u> ①	刊千年(. V)) L	ŦX	実 数 ②	前年産と の比較	実 数 ③=①×②	前年産と	の比	較
				対	差	対	比		対 差 対	比	2	対 比	3 − U ∧ Z	対 差	対	比	
			ha		ha		%	ha	ha		%	kg	%	t	t		%
北		陸	205, 900		600		100	187, 700	11,900		107	516	101	968, 900	72,900		108
新	潟	県	119, 700	\triangle	100		100	108, 600	7, 200		107	524	102	569, 100	46, 900		109
富	Щ	県	37, 600		200		101	33, 700	2,500		108	512	99	172, 500	11,800		107
石	Ш	県	23, 200		300		101	22, 100	900		104	507	102	112, 000	7, 100		107
福	井	県	25, 400		200		101	23, 300	1, 400		106	495	100	115, 300	7, 100		107

注:1 主食用作付面積とは、作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

表 2 令和 7 年産水稲の主な収量構成要素

			主な収量構成要素(前年比較)									
区 分			1 ㎡当7 穂数の		1 穂当) もみ数の		1 ㎡当 全もみ数(千もみ当たり 収量の多少 (登熟)			
			本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値		
				本		粒		100粒		g		
北		陸	前年並み	371	やや多い	77.6	やや多い	288	やや少ない	18.2		
新	潟	県	やや少ない	365	やや多い	79. 2	前年並み	289	前年並み	18.3		
富	Щ	県	やや多い	365	やや多い	74.8	多い	273	少ない	19.3		
石	Ш	県	前年並み	386	やや多い	75. 4	前年並み	291	前年並み	17.5		
福	井	県	前年並み	397	前年並み	75. 8	前年並み	301	前年並み	16.8		

注: 主な収穫量構成要素の前年比較区分は、「多い」が対前年比106%以上、「やや多い」が105~102%、「前年並み」が 101~99%、「やや少ない」が98~95%、「少ない」が94%以下に相当する。

² 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米)) は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

³ 生産者が使用しているふるい目幅で選別の10 a 当たり収量については、各県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

⁴ 予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

【管内各県の調査結果】

(生産者が使用しているふるい目幅ベース、前年産比較)

1 新潟県

(1) 水稲の作付面積は11万9,700ha(前年産 に比べ100ha減少)と見込まれる。 このうち、主食用作付面積は10万8,600ha

(同7,200ha増加)と見込まれる。これは、 備蓄米、飼料用米等からの転換により増加 したためである。

(2) 10 a 当たり予想収量は524kg (前年産に比べ9kg増加) と見込まれる。

穂数は5月中旬から6月中旬までの日照時間が前年を下回ったことから、「やや少ない」となった。1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから「やや多い」となり、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数。以下同じ。)は「前年並み」となった。千もみ当たり収量(登熟)は「前年並み」と見込まれる。

- (3) 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量 を乗じた予想収穫量(主食用)は56万9,100 t (前年産に比べ4万6,900 t 増加)と見込 まれる。
- (4) なお、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は58万7,500 t (前年産に 比べ4万4,000 t 増加)と見込まれる。

2 富山県

(1) 水稲の作付面積は3万7,600ha(前年産 に比べ200ha増加)と見込まれる。

このうち、主食用作付面積は3万3,700ha (前年産に比べ2,500ha増加)と見込まれる。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

(2) 10 a 当たり予想収量は512kg(前年産に比べ3kg減少)と見込まれる。

穂数は、5月中旬、6月上旬の気温及び6月下旬以降の日照時間が前年を上回ったことにより、前年産に比べ「やや多い」となった。1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから、「やや多い」となり、全もみ数は「多い」となった。千もみ当たり収量(登熟)は、全もみ数が前年産に比べ「少ない」と見込まれる。

- (3) 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量 を乗じた予想収穫量(主食用)は17万2,500 t (前年産に比べ1万1,800 t 増加)と見込まれる。
- (4) なお、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は18万4,300t(前年産に 比べ1万5,800t増加)と見込まれる。

図2 新潟県の作柄表示地帯別 10a当たり予想収量(9月25日現在) (生産者が使用しているふるい目幅ベース)

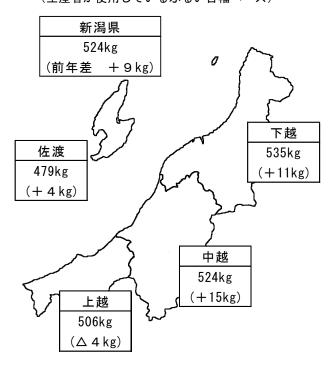
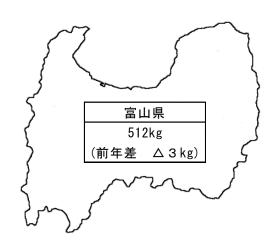


図3

富山県の10a当たり予想収量 (9月25日現在)

(生産者が使用しているふるい目幅ベース)



3 石川県

- (1) 水稲の作付面積は2万3,200ha(前年産 に比べ300ha増加)と見込まれる。
 - このうち、主食用作付面積は2万2,100ha (同900ha増加)と見込まれる。これは、 飼料用米や他作物等からの転換により増 加したためである。
- (2) 10 a 当たり予想収量は507kg (前年産に比べ12kg増加) と見込まれる。

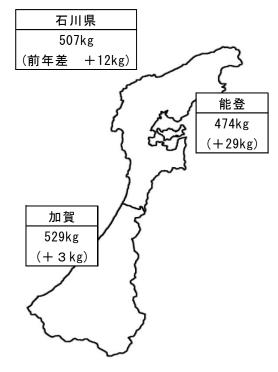
穂数は「前年並み」で、1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから、前年産に比べ「やや多い」となり、全もみ数は「前年並み」となった。千もみ当たり収量(登熟)は、「前年並み」と見込まれる。

- (3) 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量 を乗じた予想収穫量(主食用)は11万2,000 t (前年産に比べ7,100 t 増加)と見込まれ る。
- (4) なお、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は11万7,100t(前年産に 比べ6,600t増加)と見込まれる。

図 4

石川県の作柄表示地帯別 10 a 当たり予想収量(9月25日現在)

(生産者が使用しているふるい目幅ベース)



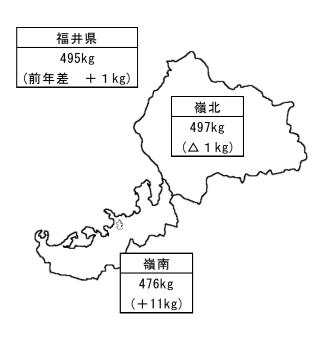
4 福井県

- (1) 水稲の作付面積は2万5,400ha(前年産 に比べ200ha増加)と見込まれる。
 - このうち、主食用作付面積は2万3,300ha (同1,400ha増加)と見込まれる。これは、 備蓄米、飼料用米等からの転換により増加 したためである。
- (2) 10 a 当たり予想収量は495kg (前年産に比べ1kg増加) と見込まれる。

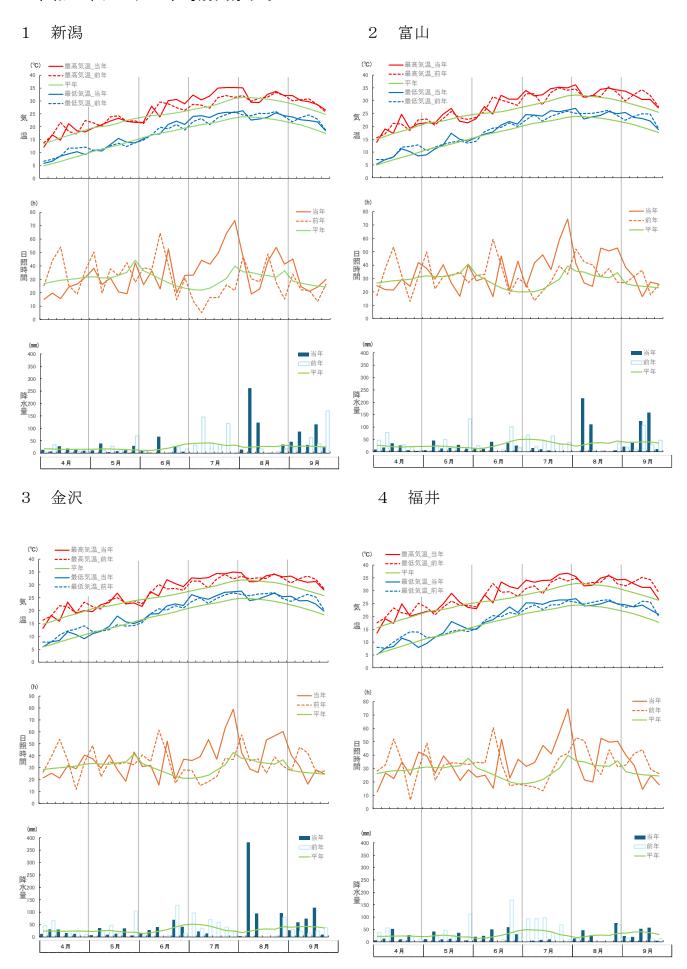
穂数、1穂当たりもみ数ともに「前年並み」となったことから、全もみ数は「前年並み」となった。千もみ当たり収量(登熟)は、「前年並み」と見込まれる。

- (3) 主食用作付面積に10 a 当たり予想収量 を乗じた予想収穫量(主食用)は11万5,300 t (前年産に比べ7,100 t 増加)と見込まれる。
- (4) なお、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は12万4,000t(前年産に 比べ7,700t増加)と見込まれる。

図 5 福井県の作柄表示地帯別 10 a 当たり予想収量(9月25日現在) (生産者が使用しているふるい目幅ベース)

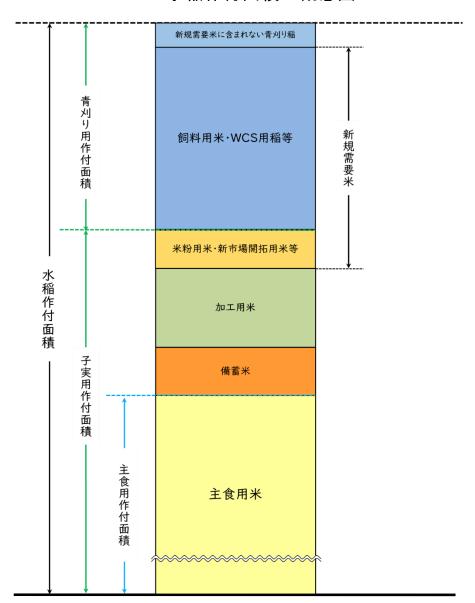


◎関連データ令和7年アメダス半旬別気象グラフ

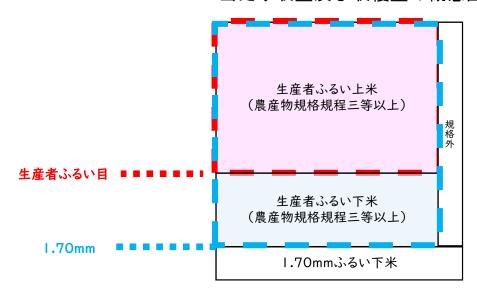


【参考1】

I 水稲作付面積の概念図

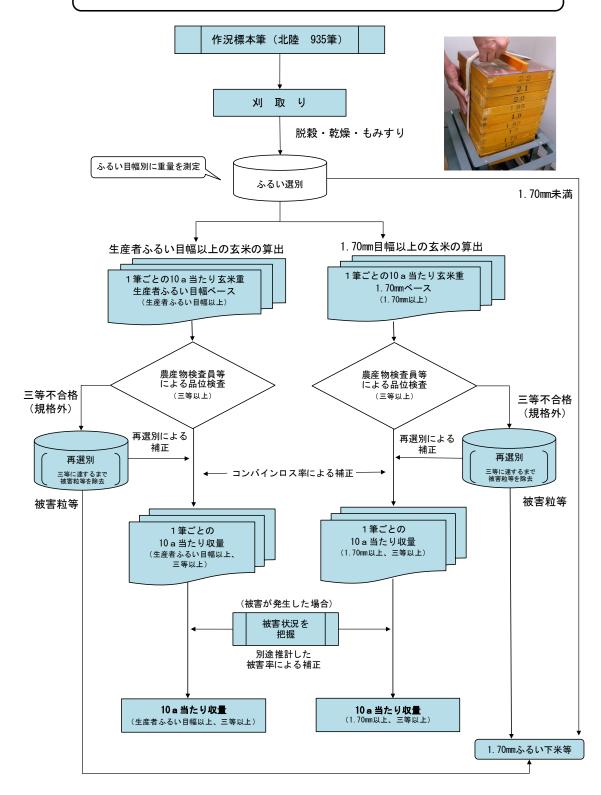


Ⅱ 10a 当たり収量及び収穫量の概念図



刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆(【参考3】参照)ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の 品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補 正を行い10a当たり収量を算出している(下図参照)。



作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼ぶ。)は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し(北陸で935筆)調査している。

全国の全ての土地



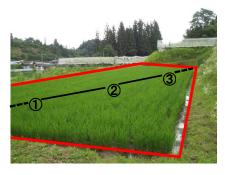
1 全国の全ての土地を 200m 四方(北海道は、400m 四方)に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きのような選び方)により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区 (200m 四方の土地)



2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、 「作況標本筆」としている。

作況標本筆 (北陸で 935 筆)



3 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を 実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡(合計3㎡) 分のサンプル採取(坪刈り)を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou_20250925.xlsx

【調査の概要】

• 面積調查

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/

作況調査(水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物)
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稲調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(平成6年法律第113号)に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び 検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)の交付金算定のための資料
- 農業保険法(昭和22年法律第185号)に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

・ 全国版は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積·生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査(水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物)」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3

- 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載 (令和8年2月予定)します。
- 次回(10月25日現在)の公表は、令和7年11月中旬の予定です。
- 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ:農林水産省>組織別から探す>農産局 https://www.maff.go.jp/j/nousan/

病害虫に関する情報:農林水産省>組織別から探す>消費・安全局>病害虫の防除に関する情報

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先:北陸農政局 統計部

生産流通消費統計課

電 話: (代表) 076-263-2161 内線 3643

(直通) 076-232-4895

連絡先:北陸農政局統計部(新潟県担当)

電 話:025-224-1441

連絡先:北陸農政局統計部(富山県担当)

電 話:076-441-0340

連絡先:北陸農政局統計部(石川県担当)

電 話:076-241-3175

連絡先:北陸農政局統計部(福井県担当)

電 話:0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先:北陸農政局 統計部

統計企画課 企画係

電 話: (代表) 076-263-2161 内線 3622

(直通) 076-232-4892



政府統計の総合窓口 (e-Stat) https://www.e-stat.go.jp/

